

---

# 令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果

---



北九州市環境マスコットキャラクター  
ていたん & ブラックていたん  
©ていたん & ブラックていたん, 北九州市

北九州市教育委員会

# 目 次

## 令和5年度 全国学力・学習状況調査 報告書

### 1 学力状況調査結果

- (1) 令和5年度全国学力・学習状況調査結果について（概況）・・・3
- (2) 学力調査結果（経年推移）※各教科・・・・・・・・・・・・・・4
- (3) 学力調査結果（経年推移）※各教科グラフ・・・・・・・・・・・・5

### 2 各教科の分析

- (1) 小学校国語・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
- (2) 小学校算数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
- (3) 中学校国語・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
- (4) 中学校数学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
- (5) 中学校英語・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11

### 3 学習状況調査結果・分析

- (1) 学習状況調査結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13・14
- (2) 児童生徒質問紙の回答結果の経年推移・・・・・・・・・・・・15・16
- (3) 学校質問紙の回答結果の経年推移（ICTを活用した学習状況）17

### 4 今後の取組

\* 学力に影響を与える要因

# 1 学力状況調査結果



# 令和5年度全国学力・学習状況調査結果(概況)

## 1 実施学年・調査内容

- ◇ 実施学年 市立の全小学校（126校）・関係特別支援学校（1校） 第6学年  
市立の全中学校（62校）・関係特別支援学校（2校） 第3学年
- ◇ 調査内容 ① 教科に関する調査（国語、算数・数学、英語）  
② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

2 調査集計者数 児童数 7,380人 生徒数 6,705人

3 調査日 令和5年4月18日（火）

## 主な結果

令和5年度	小学校 国語		小学校 算数	
	正答数	割合	正答数	割合
本市平均	9.3 / 14 問	99%	9.4 / 16 問	94%
全国平均	9.4 / 14 問		10.0 / 16 問	

令和5年度	中学校 国語		中学校 数学		中学校 英語	
	正答数	割合	正答数	割合	正答数	割合
本市平均	10.3 / 15 問	98%	7.3 / 15 問	96%	6.8 / 17 問	88%
全国平均	10.5 / 15 問		7.6 / 15 問		7.7 / 17 問	

「割合」・・・全国平均正答率に対する本市の平均正答率の割合  
 中学校英語の調査結果は「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の合計を集計したものの英語「話すこと」調査の結果については、公表は行わない

### 【分析結果1（小学校）】

- 知識・技能の正答率に改善が見られる。  
（国語「知識・技能」問題 R4全国比-2.7ポイント → R5全国比+0.5ポイントに改善 など）
- 記述式の問題に課題が見られる  
（国語「記述式」問題 全国比-1.8ポイント、算数「記述式」問題 全国比-2.7ポイント など）

### 【分析結果2（中学校）】

- 知識・技能の正答率に改善が見られる。  
（国語「知識・技能」問題 R4全国比-2.4ポイント → R5全国比-1.0ポイントに改善 など）  
（数学「知識・技能」問題 R4全国比-5.4ポイント → R5全国比-2.0ポイントに改善 など）
- 思考・判断・表現の問題に課題が見られる。  
（国語「書くこと」問題 全国比-3.4ポイント、英語「書くこと」問題 全国比-5.9ポイント など）

### 【分析結果3（児童生徒質問紙）】

- 「自分には、よいところがあると思いますか」が、小・中ともに前年度を上回っている。  
（小学校前年度比+4.0ポイント、中学校前年度比+0.3ポイント）
- 「友達関係に満足していますか」が、小・中ともに全国平均と同程度である。（新規）
- 「地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか」が、全国平均と同程度である。（新規）
- 「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか」に、1時間以上と回答した児童生徒の割合が、全国平均を下回っている。  
（小学校全国比-1.3ポイント、中学校全国比-3.1ポイント）
- 「授業時間以外に1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか」で1時間以上と回答した児童生徒の割合が、小・中ともに全国を下回っている。  
（小学校全国比-8.9ポイント、中学校全国比-8.5ポイント）

### 【考察及び今後の方向性】

- 知識・技能の正答率に改善が見られる。
  - ・ 各学校における授業改善と補充学習の取組のさらなる推進。
- ICT機器の積極的な活用と学習習慣の定着に課題が見られる。
  - ・ 本市研究委嘱校の実践事例の研究と発信。
  - ・ デジタル教科書やドリルアプリ等、授業での活用を通して、児童生徒の自主的な学びにつなげる。

# 学力調査結果(経年推移) ※各教科

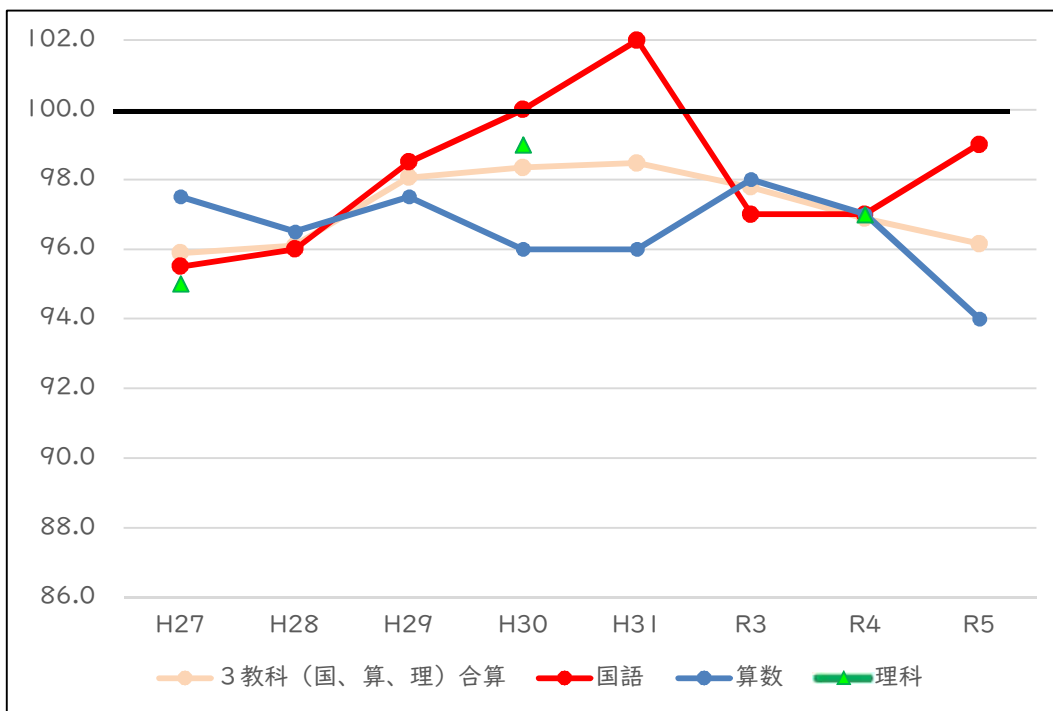
## ■ 各教科における本市と全国の平均正答率及び本市の全国平均正答率に対する割合(平成27年度～令和5年度)

小学校		国語A	国語B	算数A	算数B	理科	合計	中学校		国語A	国語B	数学A	数学B	理科	英語	合計
H27 年度	本市	67	62	73	44	57	303	H27 年度	本市	74	63	62	38	50		287
	全国	70	65	75	45	61	316		全国	76	66	64	42	53		301
	対全国比	96%	95%	98%	97%	95%	96%		対全国比	97%	96%	96%	91%	94%		95%
H28 年度	本市	70	56	76	45		246	H28 年度	本市	74	64	59	41			237
	全国	73	58	78	47		256		全国	76	67	62	44		248	
	対全国比	96%	96%	98%	95%		96%		対全国比	97%	96%	95%	93%		96%	
H29 年度	本市	74	57	77	44		252	H29 年度	本市	77	70	62	45			254
	全国	75	58	79	46		257		全国	77	72	65	48		262	
	対全国比	98%	99%	98%	97%		98%		対全国比	99%	98%	95%	94%		97%	
H30 年度	本市	71	54	61	50	60	296	H30 年度	本市	75	60	63	44	64		306
	全国	71	55	64	52	60	301		全国	76	61	66	47	66		316
	対全国比	101%	99%	96%	96%	99%	98%		対全国比	99%	99%	95%	93%	97%		97%
H31 年度	本市	65		64			129	H31 年度	本市	69		56			51	176
	全国	64		67			131		全国	73		60			56	189
	対全国比	102%		96%			98%		対全国比	95%		93%			91%	93%
R3 年度	本市	63		69			132	R3 年度	本市	63		55				118
	全国	65		70			135		全国	65		57				122
	対全国比	97%		98%			98%		対全国比	97%		96%				97%
R4 年度	本市	64		61		61	186	R4 年度	本市	66		47		47		160
	全国	66		63		63	192		全国	69		51		49		169
	対全国比	97%		97%		97%	97%		対全国比	96%		92%		95%		95%
R5 年度	本市	66		59			125	R5 年度	本市	69		49			40	158
	全国	67		63			130		全国	70		51			45	166
	対全国比	99%		94%			96%		対全国比	98%		96%			88%	95%

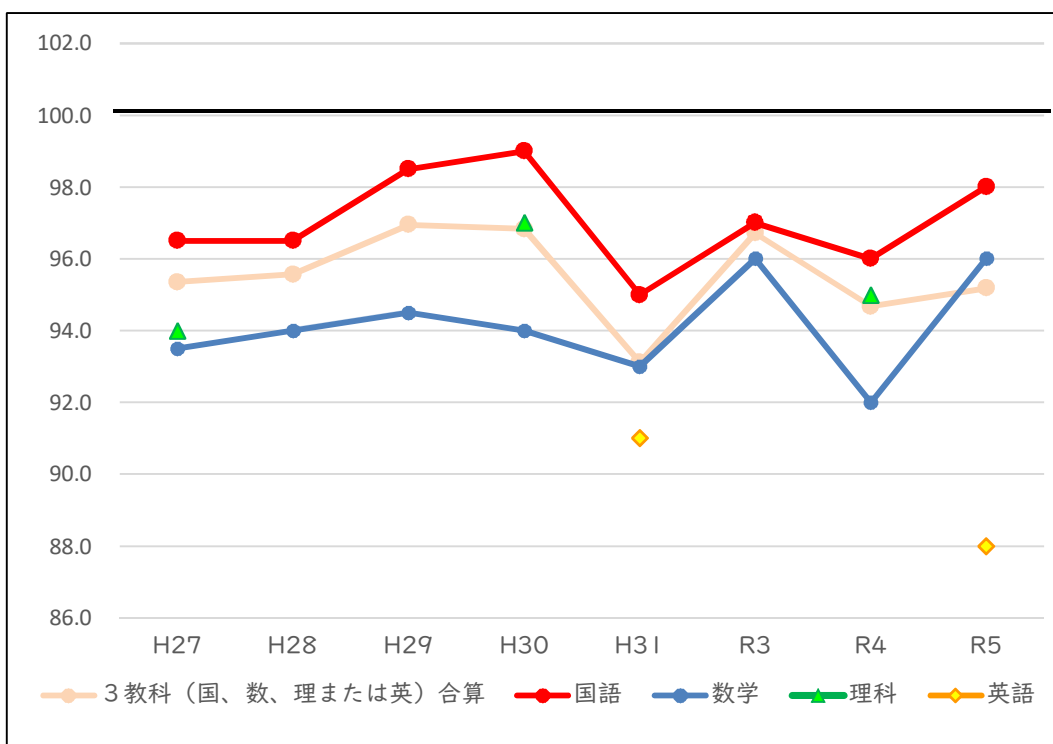
※ 正答率と対全国比は詳細な数値で計算をしているが、表記は小数第一位を四捨五入し整数値にしている。  
 ※ H31年度より従来のA問題(知識・技能等)とB問題(活用等)という区分を見直し、知識・活用を一体的に問う調査問題としている。  
 ※ R2年度は、新型コロナウイルス感染拡大のため、未実施。

■ 全国平均正答率に対する割合 (H27年度～R5年度)

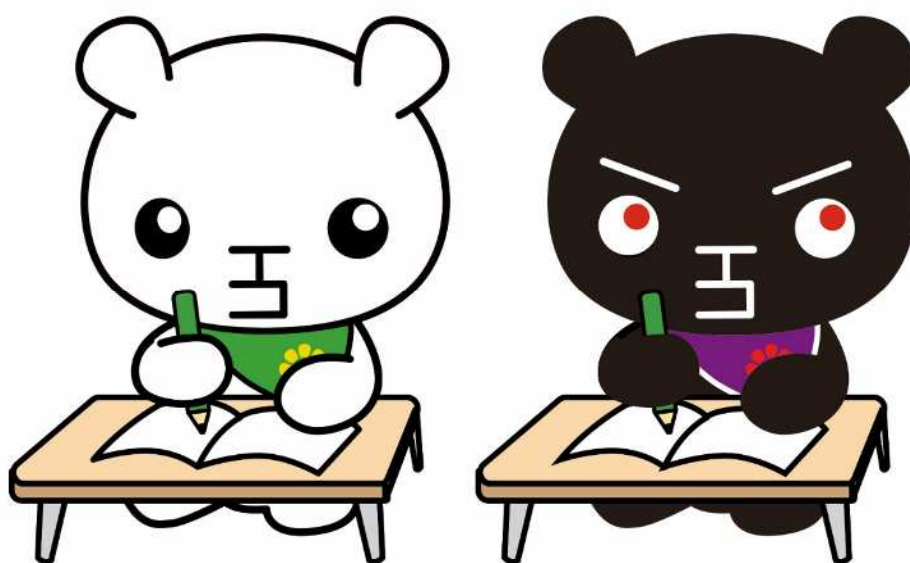
小学校 (国語、算数、理科 (H27、30、R4のみ) 合算)



中学校 (国語、数学、理科 (H27、30、R4のみ)、英語 (H31、R5のみ) 合算)



## 2 各教科の分析



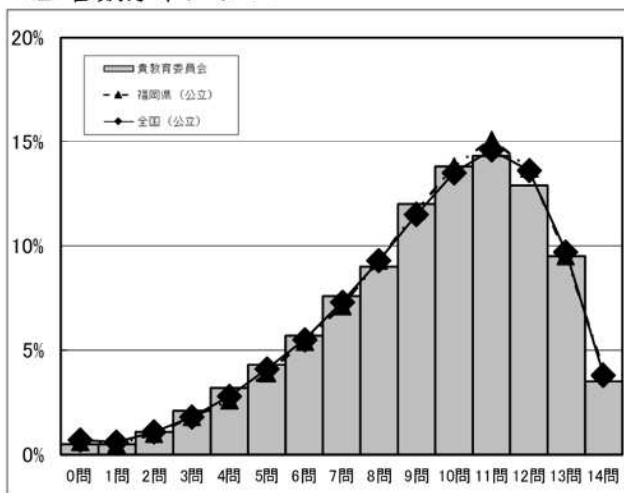
# (1) 小学校国語

## 令和5年度 全国学力・学習状況調査 結果分析 [小学校 国語]

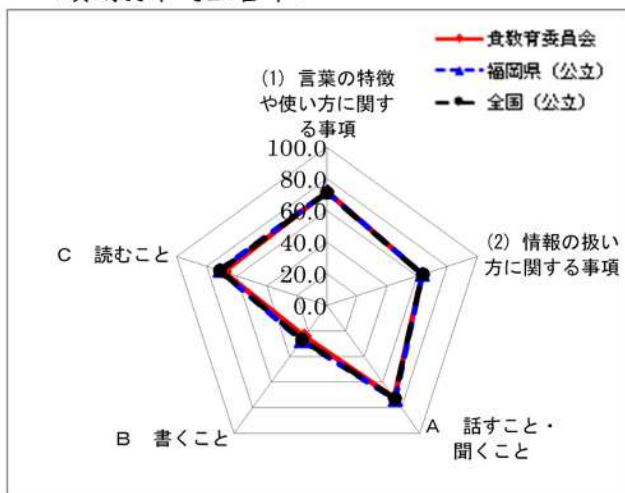
<集計値>

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
北九州市教育委員会	7,380	9.3 / 14	67	10.0	2.9
福岡県(公立)	43,025	9.5 / 14	68	10.0	2.9
全国(公立)	964,177	9.4 / 14	67.2	10.0	2.9

<正答数分布グラフ>

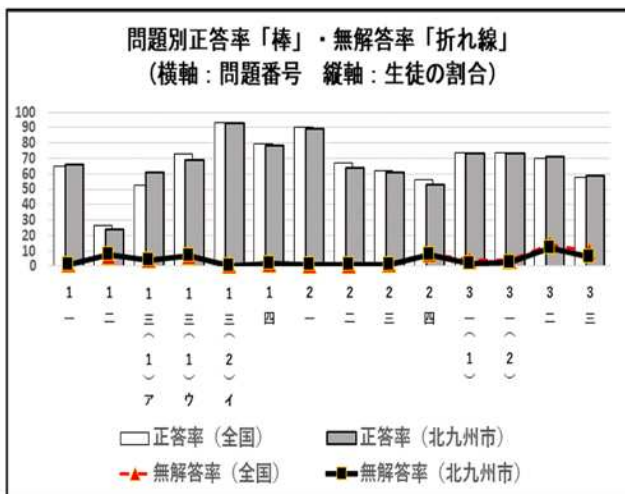


<領域別平均正答率>



<区分別平均正答率の状況>

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)			
			北九州市教育委員会	福岡県(公立)	全国(公立)	
全体			14	67	68	67.2
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	5	71.8	71.7	71.2
		(2) 情報の扱いに関する事項	2	63.3	63.5	63.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0			
思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	72.4	73.5	72.6	
	B 書くこと	1	24.2	27.5	26.7	
	C 読むこと	3	68.8	71.6	71.2	
評価の観点	知識・技能	7	69.4	69.3	68.9	
	思考・判断・表現	7	63.9	66.1	65.5	
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	9	72.9	74.1	73.6	
	短答式	2	64.6	63.0	62.7	
	記述式	3	49.3	51.9	51.1	



出典: 文部科学省 全国学力・学習状況調査 結果資料

<結果>

- 正答率の全国比は、昨年度から上昇して、99.7%であった。(昨年度 97.5%)
- 「言葉の特徴や使いに関する事項」についての正答率は、全国平均を上回っている。  
(全国比+0.6)
- 「思考力、判断力、表現力等」の「書くこと」の正答率は 24.2%で全国平均を下回っている。  
(全国比-2.5)

<今後の授業改善の方向性：方策>

- ・ 「知識及び技能」について、これまでの取組の成果が表れてきている。今後も ICT 等を活用して、個や必要に応じた補充・発展的な学びの機会を充実させていくとともに、意図的に「知識及び技能」を活用させる活動を設定する。
- ・ 図表やグラフ、文章など、複数の資料から必要な情報を見付けたり、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫したりしながら書くことができる場を日常生活と関連付けながら設定する。



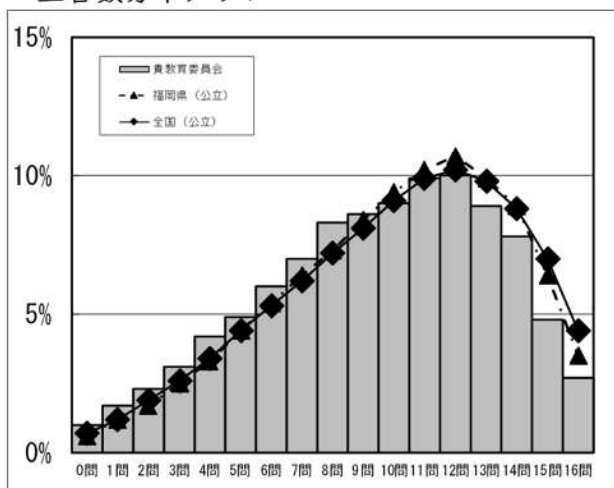
## (2) 小学校算数

### 令和5年度 全国学力・学習状況調査 結果分析 [小学校 算数]

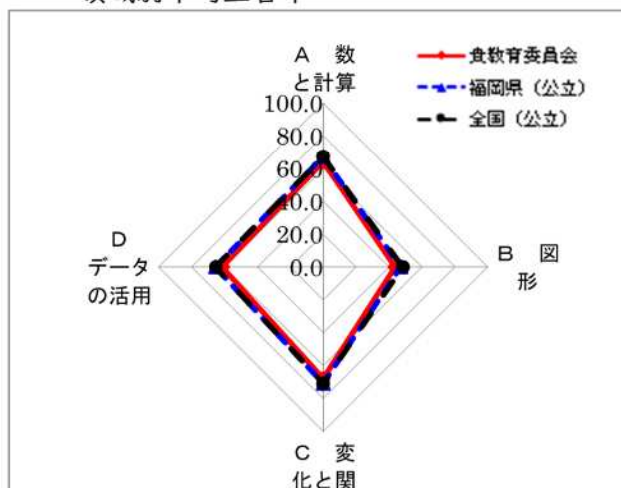
#### <集計値>

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
北九州市教育委員会	7,381	9.4 / 16	59	10.0	3.8
福岡県(公立)	43,043	10.0 / 16	62	10.0	3.7
全国(公立)	964,350	10.0 / 16	62.5	11.0	3.8

#### <正答数分布グラフ>

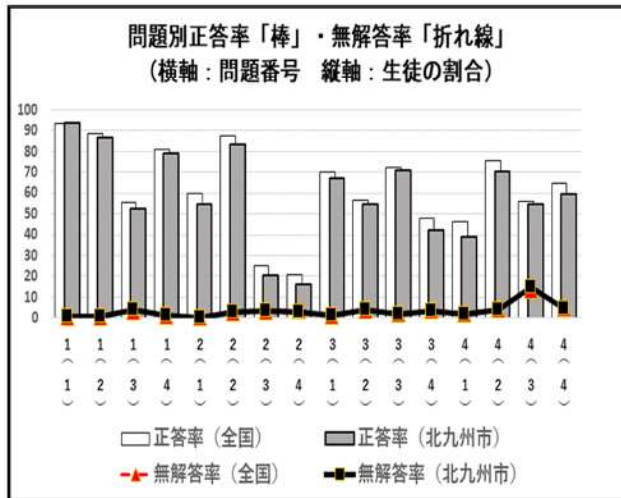


#### <領域別平均正答率>



#### <区分別平均正答率の状況>

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)		
			食教育委員会	福岡県(公立)	全国(公立)
全体			59	62	62.5
学習指導要領の領域	A 数と計算	6	64.0	67.1	67.3
	B 図形	4	43.6	47.0	48.2
	C 測定	0			
	C 変化と関係	4	67.8	70.8	70.9
	D データの活用	3	61.5	65.6	65.5
評価の観点	知識・技能	9	63.3	67.0	67.2
	思考・判断・表現	7	53.4	56.3	56.5
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	5	52.3	57.3	57.7
	短答式	7	71.9	74.6	74.7
	記述式	4	44.6	47.0	47.3



#### <結果>

出典：文部科学省 全国学力・学習状況調査 結果資料

- 「C 変化と関係」領域については、本市と全国の平均正答率の差が昨年度より縮まっている。(R4：-3.8、R5：-3.1)
- 問題形式では、「短答式」で、本市と全国の平均正答率の差が昨年度より縮まっている。(R4：-3.6、R5：-2.8)
- 「図形」領域の正答率が全国平均を下回っている。(全国比-4.6)
- モデル文(雛形)に沿って解答を記述する問題の正答率は、54.7%と課題が見られた。(全国比-1.5)

#### <今後の授業改善の方向性：方策>

- ・ 図形の見方・考え方を働かせながら取り組むことができる活動場を設定する。
- ・ 数学的に表現し、伝え合う活動の場の充実を図る。
  - 言葉や図、数、式、グラフなどを適切に用いて、思考の過程や判断の根拠などを表現したり、説明したりする活動を取り入れる。

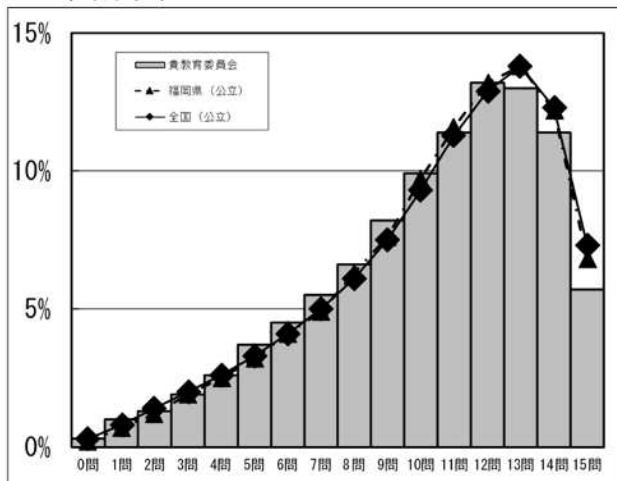
### (3) 中学校国語

## 令和5年度 全国学力・学習状況調査 結果分析 [中学校 国語]

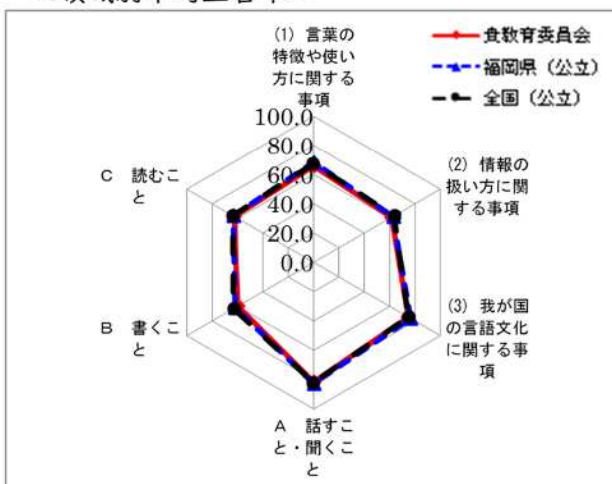
### <集計値>

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
北九州市教育委員会	6,690	10.3 / 15	68	11.0	3.4
福岡県(公立)	39,798	10.5 / 15	70	11.0	3.3
全国(公立)	892,738	10.5 / 15	69.8	11.0	3.4

### <正答数分布グラフ>

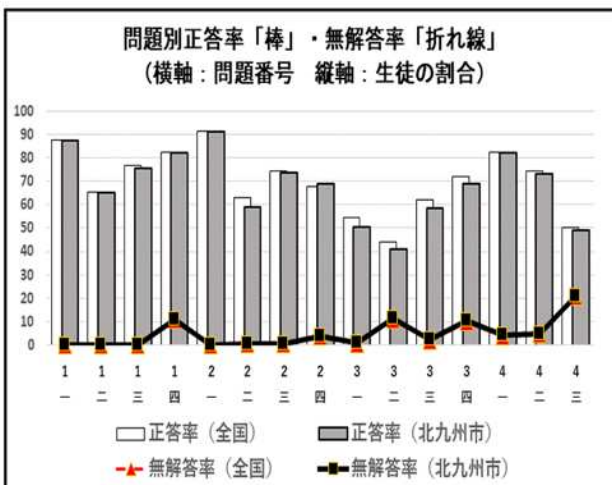


### <領域別平均正答率>



### <区分別平均正答率の状況>

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)			
			県教育委員会	福岡県(公立)	全国(公立)	
全体			15	68	70	69.8
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	2	65.9	68.3	67.5
		(2) 情報の扱いに関する事項	2	61.6	62.5	63.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	3	74.7	76.6	74.7
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	81.7	82.8	82.2
		B 書くこと	2	59.8	61.9	63.2
		C 読むこと	4	62.6	63.4	63.7
評価の観点	知識・技能	7	68.4	70.2	69.4	
	思考・判断・表現	9	68.4	69.5	69.7	
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	7	71.7	72.5	73.1	
	短答式	4	63.6	66.5	65.6	
	記述式	4	67.3	68.5	68.0	



### <結果>

出典：文部科学省 全国学力・学習状況調査 結果資料

- 正答率の全国比は、昨年度から上昇して、97.4%であった。(昨年度 95.9%)
- 文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付けて自分の考えを広げたり深めたりすることができるかどうかをみる問題の正答率が全国平均を上回っている。(全国比 102.0%)
- 領域別全国比「話すこと・聞くこと」99.4%、「読むこと」98.3%に対して、「書くこと」94.6%で「書くこと」の領域において課題が見られる。
- 問題形式別全国比「選択式」98.1%、「記述式」99.0%に対し、「短答式」の正答率が97.0%と低くなっている。

### <今後の授業改善の方向性：方策>

- ・ 1つの文章を効果的に読むだけでなく、複数の文章を比較しながら読むことなどの活動を通して、それらの特徴が文章全体の特徴にどのように関わっているかを考える場面を設定する。
- ・ 文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係や登場人物との設定の仕方などを捉える活動を通して、意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解を図る。

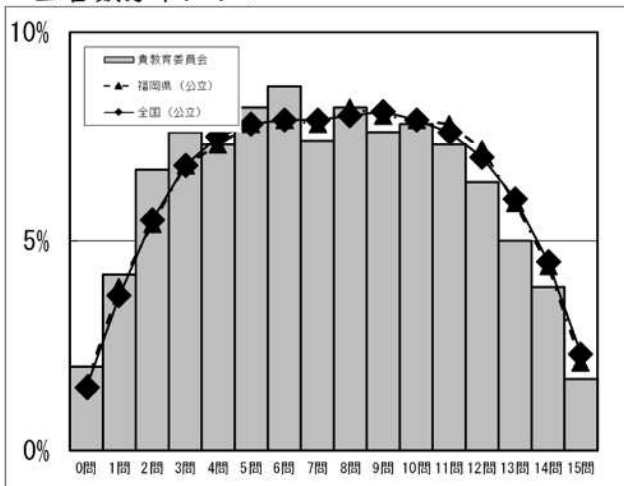
# (4) 中学校数学

## 令和5年度 全国学力・学習状況調査 結果分析 [中学校 数学]

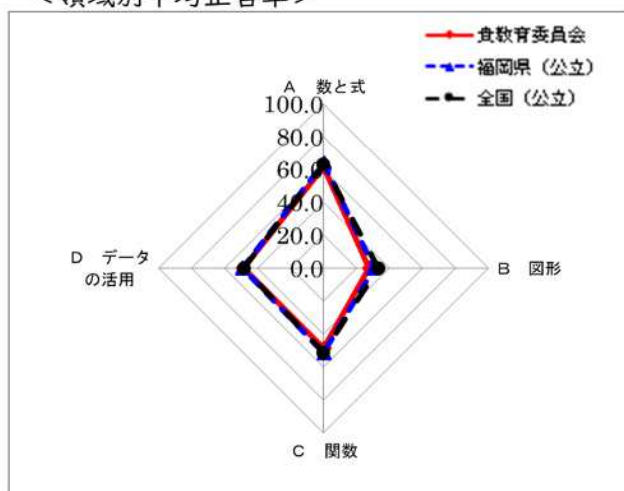
<集計値>

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
北九州市教育委員会	6,701	7.3 / 15	49	7.0	3.9
福岡県(公立)	39,801	7.6 / 15	51	8.0	3.9
全国(公立)	893,114	7.6 / 15	51.0	8.0	3.9

<正答数分布グラフ>

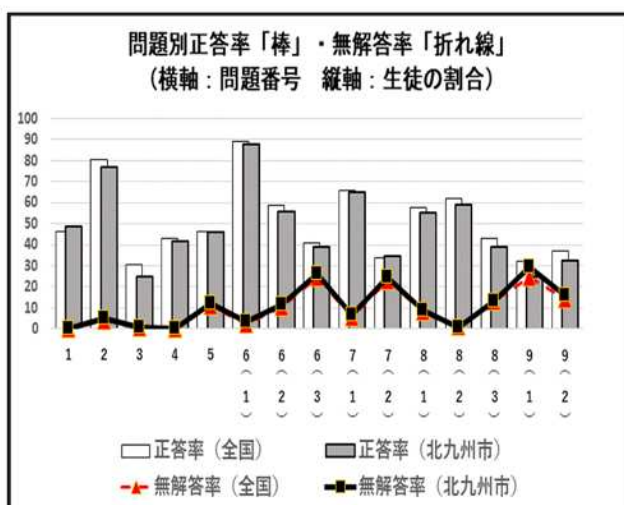


<領域別平均正答率>



<区別別平均正答率の状況>

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)		
			北九州市教育委員会	福岡県(公立)	全国(公立)
全体			49	51	51.0
学習指導要領の領域	A 数と式	5	61.4	63.7	63.0
	B 図形	3	27.5	30.6	33.2
	C 関数	4	48.6	51.4	51.2
	D データの活用	3	48.5	49.1	48.5
評価の観点	知識・技能	10	53.7	55.2	55.7
	思考・判断・表現	5	38.5	42.2	41.6
問題形式	選択式	4	43.6	45.1	45.3
	短答式	6	60.4	62.0	62.6
	記述式	5	38.5	42.2	41.6



<結果>

出典:文部科学省 全国学力・学習状況調査 結果資料

- 正答率の全国比は、昨年度から上昇して、96.0%であった。(昨年度 92.0%)
- 「知識・技能」を問う問題において、本市と全国の平均正答率の差が昨年度より縮まっている。(R4: -5.4、R5: -2.0)
- 「データの活用」領域で全国比 100%と昨年度から上昇している。(昨年度 97.0%)  
特に、複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する記述式の問題で全国比 102.0%と全国平均正答率を上回っている。

● 「図形」領域の「思考・判断・表現」を問う記述式の正答率が低く、無解答率が高くなっている。

<今後の授業改善等の方向性：方策>

- ・ GIGA端末を活用し、図形の大きさや形を変えるなどの操作活動や観察を通して成り立つ事柄を見いだす場面等を設定し、問題解決における学びの充実を図る。
- ・ 授業の終末や自主学習の時間に、練習問題に取り組む活動を確保して、学習内容の習熟を図る。

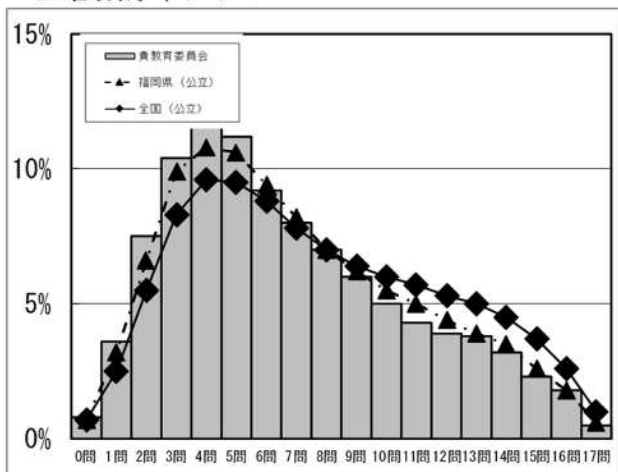
## (5) 中学校英語

### 令和5年度 全国学力・学習状況調査 結果分析 [中学校 英語]

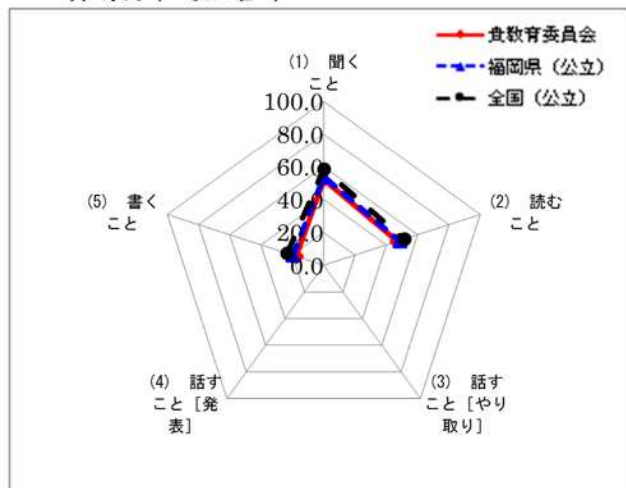
<集計値>

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
北九州市教育委員会	6,705	6.8 / 17	40	6.0	3.9
福岡県(公立)	39,825	7.1 / 17	42	6.0	4.0
全国(公立)	893,528	7.7 / 17	45.6	7.0	4.2

<正答数分布グラフ>

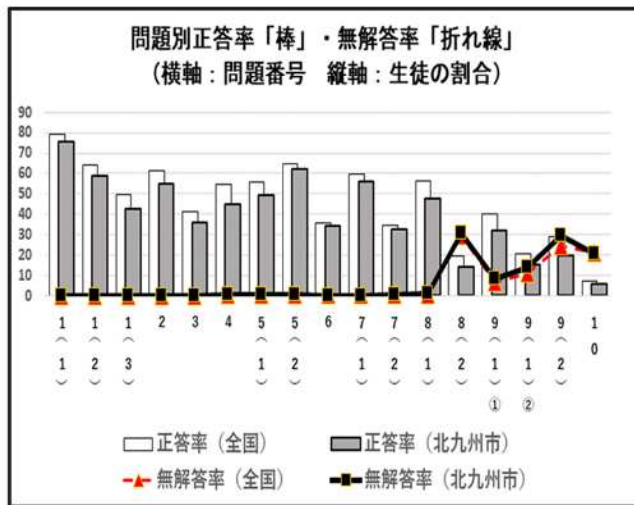


<領域別平均正答率>



<区別別平均正答率の状況>

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)		
			北九州市教育委員会	福岡県(公立)	全国(公立)
全体			40	42	45.6
学習指導要領の領域	(1) 聞くこと	6	52.1	53.8	58.4
	(2) 読むこと	6	47.0	48.2	51.2
	(3) 話すこと[やり取り]	0			
	(4) 話すこと[発表]	0			
	(5) 書くこと	5	17.5	19.6	23.4
評価の観点	知識・技能	9	45.7	47.7	51.5
	思考・判断・表現	8	33.8	35.1	38.8
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	12	49.5	51.0	54.8
	短答式	3	22.4	25.6	30.1
	記述式	2	10.1	10.7	13.5



出典: 文部科学省 全国学力・学習状況調査 結果資料

<結果>

- 「読むこと」の領域では、メールを読んで条件に合うイベントを選択する問題は全国平均との差が開いていない。(全国比 96.1%)
- 領域別に全国比をみると、「聞くこと」89.2%、「読むこと」91.8%に対し、「書くこと」は74.8%と書くことが最も課題が大きい。
- メール of 英文を依頼する表現に書き換える問題は全国平均との差が開いている。(全国比 68.6%)

<今後の授業改善の方向性: 方策>

- ・ 授業では、聞いたり読んだりしたことについて概要や要点を捉える活動、また、即興で自分の考えや気持ちなどを伝え合う活動、もしくは書く活動などが行われたと捉える生徒は全国平均より多い。今後は、これらの活動に加えスピーチやプレゼンテーションなどまとまった内容を英語で発表する活動、発表したことについて書くなどにおいて、正確性を求める活動の充実を図る。また、継続して「書くこと」の力を育成する授業改善の工夫を行う。